

1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と、広い運動場、整った設備の中でいきいきとした心身の健康と体力増進を中心とし、ひとりひとりの個性を大切に、諸能力を十分に発達させ、情操を豊かにし、人間形成の基礎を確立することを目標とする。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児教育要領の内容に基づき、教職員一人ひとりが子どもとしっかり向き合い、また各年齢に応じたカリキュラムでは、子ども達の興味関心が深まり好奇心が高まる教育内容や活動が行えるようにする。また、学園の運動場でのびのびと戸外遊びを展開するうえで、各年齢に応じた運動遊びがより具体的な遊びとしてできるように取り組む。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育課程の編成・実施や目標に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	幼児教育要領の内容に合わせた指導計画のねらいをもとに、各年齢ごとの教育保育内容の取り組みができるようにすすめている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にむけた各年齢ごとの具体的な保育内容、環境構成の取り組みが引き続き課題である。また教育要領の教職員の理解には個人差があり、研修などで各自の理解を深めたい。
具体的な保育の在り方、幼児への対応や保育内容の教職員の共通理解	B	幼稚園生活の中での、子どもの健康や安全面に留意しながら幼児教育要領に基づきカリキュラム作りをし具体的な指導内容を教職員間の共通理解の元で行っている。また、戸外遊びや運動遊びの具体的な活動の取り組みとして、今年度は運動遊びについてのカリキュラム作成を行ったことで教職員の保育内容の共通理解がしやすくなった。今後はさらにこのカリキュラム構成を一年ごとに見直しを図っていくようにする。保育内容の職員の共通理解は、会議のもち方、資料作成を事前準備することなどでより伝わりやすく、またわかりやすくなった。今後も継続して行っていくことが大切である。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	A	各自の日々の保育での疑問点は学年ごとの会議などで伝えやすい環境になっているが、他学年との伝達や相互理解においては十分でない面もあり、今後他学年との伝達や共通理解の仕方を工夫することが必要である。また、引き続き教職員間の意見交換がスムーズに行える環境を整えることも継続して行うことが大切である。
保護者への対応	A	日頃から保育での子どもの様子を教職員の方から積極的に保護者に伝えるようにし、保護者とのコミュニケーションを丁寧にとるように心がけている。また、個人やクラスのことでも内容によっては学園で協議し職員間で共通理解が持てるようになっている。

研修の取り組みについて	B	今年度はコロナ禍でリモート研修が増えた為、今まで全員での参加が難しかった研修も教職員全員で受けることができ、教職員の相互理解が深められとても良かった。職員の資質向上のため、また保育での不安解消のためなど、今後も様々な内容の研修に参加し、学びを深めたいと考える。さらに園内研修においても同様とし、教職員間の共通理解の向上を引き続き行なっていくようにする。
安全面に配慮した環境づくりと地域の自然や社会との関わりや取り組み	A	日々の安全点検の確認、励行を継続し行っている。また、一新した放送設備で、本年度は防犯・防災・火災などの安全対策により対応できるようになった。各訓練も防災頭巾を活用し行い、また地域の消防署とも連携し実施に取り組んだ。今後も同様にししっかり安全教育を遂行していきたい。地域とのかかわりは、コロナ禍ということもあり様々な行事や活動を変更し行うことになり十分にできないこともあったが、情勢が落ち着いて今までの日常に戻れば小学校との交流や地域との交流を以前のように実施したいと考える。

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている    B 達成されている    C 取り組まれているが、成果が十分でない  
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	今年度はコロナ禍にあり、保育内容、園生活、行事など様々な面で感染症対策を基準とし、内容を工夫したりまた状況によってはやむをえず変更・中止などをし、安全対策を重点とし行ってきた。状況によっては十分にできない活動もあったが、そのような中でも昨年目標に掲げた課題等においては全体的にはおおむね取り組むことができている。各個人における教育要領の理解、また、それに基づくカリキュラム作成への展開には個人差があるので、今後も教職員間の相互理解の工夫やまた研修で資質向上することが大切であり課題と考える。また、運動活動や戸外遊びについては各学年ごとに運動場の割り当てを決めたり、年齢に応じた運動目標を決めそれに基づく運動カリキュラムを作成したことによって、より具体的な遊びとしての運動活動ができた。今後はさらにこのカリキュラムに基づく遊びや活動をしっかり深め、展開してていくことが次の課題であると考えている。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
教職員の資質向上	教職員が各々幼稚園教育要領の理解を研修などを通してより理解を深めること、また感染症対策についての知識と理解が日常生活で大切であり、今後も研修や行政機関の対応をしっかり各自で理解できるように取り組むようにする。
運動遊びの日常の中での取り組みについて	各年齢に応じた日常の中での運動遊びを、運動カリキュラムに基づき内容を広げ1年間を通して深めていくようにし、また年齢ごとの運動達成目標を指針に、体をしっかり使い遊びに取り組むようにする。
環境構成の取り組み	保育の中での様々な場面で子どもの発想を柔軟に取り入れ、子どもたち自身がしっかりと自分で考えることができるような環境構成の取り組みが課題である。また、保育者自身の得意なことを日常での保育に取り入れ保育者自身も楽しめる保育を積極的に行っていきたい。さらに引き続き感染症対策も丁寧に行うようにする。

地域社会について	地域社会の環境や主な施設の場所、交通機関などについて、教職員間で伝達しあうなど共通理解ができるようにする。
----------	---

#### 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

#### 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。